

成田空港活用協議会
令和元年度 事業報告
(資料編)

目 次

(1) ビジネス支援事業

○CHIBAビジコンとの連携による新規事業創出の促進	1
○アクティビティ（体験型）商品開発	3
○航空/空港関連企業との商談会	4
○ランドオペレーターとの商談会	7
○訪日客等への「おもてなし」食プロジェクト	9
○日本遺産等を活用した誘客促進	13
○地方創生と連動したDMO養成塾	16
○日本文化の発信によるターミナル空間の価値向上及び近隣エリアへの誘客	18
○ユニバーサルツーリズムの促進	20
○競技開催地とホストタウンや周辺市町村が連携した情報発信・観光誘客との促進	23
○空港関連企業の雇用確保に向けた教育機関と連携した取組	24
○県内観光情報・成田空港の魅力発信	25
○第1回県内経済活性化ビジネスセミナー	27
○第2回県内経済活性化ビジネスセミナー【再掲】	29

(2) 空港利用促進事業

○空港利用促進PR等	34
------------	----

(3) 基本的な取組

○首都圏中央連絡自動車道及び北千葉道路の整備推進に関する要望	33
--------------------------------	----

○会員提案の募集・具体化・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35

(4) その他

○プレスリリース・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36

(1) ビジネス支援事業

CHIBA ビジコンとの連携による新規事業創出の促進

千葉県が主催するCHIBAビジコンへの協賛・賞の創設を通じて、起業家に対し成田空港を活用した新規ビジネスの可能性を示し、新規事業創出の機運を醸成する。

本年度は、成田空港を活用したビジネスの発展性、地域経済への活性化効果などの観点から、ビジネス受賞プランを選定・表彰し、副賞として当協議会主催セミナーでの事業紹介の機会を贈呈した。



(ちば起業家応援事業ホームページより)



協賛企業及び受賞者記念写真

(ちば起業家応援事業ホームページより)



協賛企業紹介の様子

[展開]

<CHIBA ビジコン2019表彰式>

日 時

令和2年1月30日(木)

成田空港活用協議会賞受賞者

(株)蜂蜜工房 井嶋幸裕氏

受賞プラン

ミード専門ワイナリー

- ・ 日本初のミード専門ワイナリーの立ち上げ

ミードとは、蜂蜜で作ったお酒で、国内では5か所ほどで醸造されている。そのいずれもが昔ながらの造り酒屋であるため、日本初のミード専門のワイナリーを設立する。

- ・ 観光と農業の要素を取り入れたワイナリー構想

養蜂場の見学から、蜂蜜の採取・加工、ミード醸造、テイスティング、販売までを一貫で行える、ワイナリー施設を計画している。

副 賞

成田空港活用協議会主催セミナー(会員向け)で事業紹介

※新型コロナウイルスの収束が見通せないため、セミナーに代えて、会員向けに事業紹介資料の配布を行う。

- ・ 成田空港を活用した新規事業創出の促進を図るため、県が主催する「CHIBA ビジコン2019」に協賛した。応募総数68件の中から、「成田空港を活用したビジネスの発展性」、「地域経済活性化効果」などを基準に書類審査により選定し、本年1月に開催された授賞式で表彰を行った。

[総 括]

- 今回の受賞プランは、新規性、発展可能性などの点からも高く評価され、今後の事業化に期待がかかる。
- 当協議会としては、受賞プランについて、会員への周知を図り、マッチングを支援するなど受賞プランの事業化を後押ししていく。

アクティビティ(体験型)商品開発

アクティビティ(体験型)の公募とモニターツアーの実施により、コンセプト設定とマーケティング戦略を構築し、新たな商品展開を目指す。

本年度においては、昨年度選定した会員と連携し開発したアクティビティ商品のモニターツアーを実施し、ツアー結果と踏まえた商品の磨き上げ等を行った。



〔展開〕

アクティビティ商品の開発にあたって外国人の視点を取り入れることを目的とし、モニターツアーを実施した。

ツアー終了後、参加したモニターからツアーへの評価や感想をヒアリングし、商品ごとに改善点、価格の妥当性、ターゲット客層等のフィードバックを受け、商品化に向けた磨き上げを進めた。

モニターツアーの実施状況については以下の通り。

- ・ 芝山町（みどりと空のプロジェクト）

実施日：令和元年 11 月 15 日

行程：殿塚・姫塚（古墳）見学、芝山仁王尊・観音教寺・芝山ミュージアム、芝山古墳・はにわ博物館、森林浴道場・そば打ち見学

- ・ 千葉市（ケアグリーン）

実施日：令和 2 年 1 月 7 日

行程：日本寺にて唱題業、武術体験および殺陣の動画撮影

〔協力会員〕

芝山町、多古町

〔総括〕

- 今年度は、当初 8 回程度のモニターツアーを実施予定だったが、台風や新型コロナウイルスの影響等により、2 回の実施となった。
- 実施したモニターツアーについて、モニター参加者からは概ね好評であったが、商品化に向けては地域の各コンテンツを回るだけでなくツアーにストーリー性を持たせること、歴史的背景についても精通したガイドの重要性を認識する部分もあった。
- 次年度は商品の更なる磨き上げのため、より一層ツアーの磨き上げを行なっていくとともに、事業参加会員の再公募も行い、より多くの商品造成を目指したい。

航空／空港関連企業との商談会

航空／空港関連事業者と県経済界のビジネスマッチングを行うことで、成田空港を起点とした新しいビジネス(取引)の実現を図る。

令和元年7月に、全日本空輸関係先企業の参加のもと、会員を含む県内企業との商談会を開催し、県経済の活性化及び会員に対し航空／空港関連事業との取引機運の醸成を図った。



あいさつする佐久間会長



あいさつする森田知事



あいさつする全日本空輸(株)志岐副社長



知事らによる視察の様子



展示商談の様子



個別商談の様子

[展開]

日時: 令和元年7月31日(水)9時30分～17時20分(午前の部・午後の部の2部制)

場所: ANAクラウンプラザホテル成田

参加者: バイヤー 6社(7部門)

サプライヤー 56社

- ・「おいしい千葉と空の商談会2019夏」と題して、全日本空輸(株)の協力のもと、全日本空輸関係先企業をバイヤーとして招集し、千葉県内に事業所等を持つ事業者を対象に商談希望者を募った。
- ・応募者の中から、バイヤーの指名が多かった事業者を参加者として指定し、事前説明会に参加してもらった。
- ・事前説明会では、商談会に向けての心構えや、商談の際の注意事項などについて、参加者への周知を図った。
- ・商談会では、個別商談及び展示商談会を実施。個別商談はバイヤー指名に基づきセッティングし、1コマ20分とし、午前の部は3コマ、午後の部は5コマを設けた。展示商談は、午前の部、午後の部それぞれ1時間10分の時間を設け、各参加者が展示ブースを設けそれぞれ自社の商品をアピールした。
- ・商談会後のフォローアップのための勉強会(サプライヤー向け)を9月10日(火)に開催。商談会の振り返り、商談会後のフォローの方法等を行った。

[メディアへの露出]

□新聞等 千葉日報(8月1日)、毎日新聞(8月22日)

[アンケート結果]

<商談の成果>

(サプライヤー56事業者)

具体的な商談成約をした=6

継続商談中=14

契約に至らず・未回答=36

<主な意見>

(サプライヤー)

- ・ 普段なかなかお会いできない方々へ商品を紹介することができました。
- ・ 設備も充実していてとても展示しやすかった。
- ・ 個別商談の時間を増やしてほしい。

(バイヤー)

- ・ とても美味しかった。もう少し価格を上げてほしいと思う。
- ・ 現行商品となっていないものをリクエストしたため、時間がかかると思うものの、前向きに検討していく。
- ・ 味は濃厚でおいしいものの、ビンに入っているため、空港では少し取扱いが難しい。

[協力会員]

全日本空輸㈱、成田商工会議所、㈱千葉銀行、㈱千葉興業銀行、㈱京葉銀行

[総括]

- 当日アンケートでは、バイヤー・サプライヤーの多くから「継続的な商談を行いたい」という意見が聞かれ、通常であればなかなか接点を持つことができない両者を繋げることができた。
- 前回同様、会員金融機関、会員経済団体、会員市町村等を通じて広く声を掛けてもらった結果、定員を大きく上回る75者の参加申込があり、開催の周知方法について手応えを得た。
- 事前説明会により、商談会への準備や心構え等について、丁寧に説明した結果、一定のレベルが担保され、より高いレベルでの商談が可能となった。
- バイヤーが6社(7部門)と前回の商談会を下回る数となった。また、フォローアップ勉強会に参加したのは商談会参加事業者56者中4者程度であった。参加を促すための働きかけが課題として残った。

ランドオペレーターとの商談会

昨年度に引き続き、当協議会と千葉インバウンド促進協議会の共催のもと、会員企業、団体及び自治体にランドオペレーターを活用していただくことで、千葉県を訪れる訪日外国人旅行客の増加に向けた魅力的な旅行商品の造成に繋げ、アジアからの観光客の更なる増加を目指すため、東アジアや東南アジアの両地域を手掛けるランドオペレーターとの「商談会・交流会」を実施した。

※ランドオペレーター

海外の旅行会社の依頼により、日本国内の宿や観光地、往復航空機以外の交通手段などの「地上手配」を専門に行う会社のこと。海外発の日本旅行における地上手配は、日本国内に詳しいランドオペレーターに手配を委託することが一般的なため、旅行商品の造成にも大きく関わっている。

〔展開〕

- ・ 令和2年1月28日（火）に「たてやま温泉夕日海岸昇鶴」にて商談会を行った。
- ・ 商談会では、ランドオペレーター11社・団体に対し、30の会員企業・団体が参加した。
- ・ 商談の前に千葉県商工労働部観光誘致促進課から、今後のインバウンド事業に関する支援や取組について参加者に情報提供を行った。
- ・ 商談会はランドオペレーターのブースを設置し、会員企業・団体が各ブースを回り、1コマ10分で13コマ実施した。また、商談会終了後の交流会で、さらなる交流を深めた。
- ・ 商談会の翌日には、ランドオペレーターに地元をよく知ってもらうことを目的としたモニターツアーを開催した。



各ブースでの商談の様子



交流会の様子



モニターツアーの様子①



モニターツアーの様子②

〔メディアへの露出〕

□新聞 千葉日報（1月30日）

〔参加者等〕

□会員 30団体（社）47名（千葉インバウンド促進協議会員を含む）

〔協同主催者〕

千葉インバウンド促進協議会

〔協力会員〕

（公社）千葉県観光物産協会、千葉県

〔総括〕

- 昨年度に引き続き、千葉インバウンド促進協議会との共催により、観光・宿泊・交通と幅広い会員事業者を呼ぶことができた。
- 参加者からは10分間の商談会のなかで成約まで至るのは難しかったが、今回のことをきっかけに個別の訪問を重ねたいといった声があり、今後の展開に向けたきっかけづくりとして利用された。
- 交流会では、参加者同士が個々に歓談できる時間を増やすことで、商談会で話し足りなかった部分を補うことができた。
- 参加した会員からは、今後も引き続き行ってほしいという声があった。参加者からの要望事項などを踏まえ、次年度以降も継続的（年1回程度）に開催を検討する。

訪日客等への「おもてなし」食プロジェクト

ハラルやベジタリアンに対応した多様な食事が、県内各地で提供される環境を整備し、誰もが「ちばの食」を楽しめる「おもてなし」を創出することを目的として、県内の飲食店、食品事業者への支援を行う。これにより、「食」におけるちばのブランド力向上や誘客につなげ、また、県内事業者の新たなビジネスの創出を目指す。

本年度においては、食の制限に対応するためのノウハウの取得、事業化に向けた支援及び、知名度向上のためのPR活動を行った。

[展開]

<セミナー>

ちばの『おもてなし』食フォーラム

～食のダイバーシティ先進地ちばを目指して～

日 時：令和元年9月27日（金） 14:00～16:30

場 所：ホテルスプリングス幕張 ゲストハウス「パラッツィーナ」

内 容：①ちばの「おもてなし」食プロジェクトとは？ 千葉県産業振興課

②「ムスリムへのおもてなし」

千葉県観光プロモーション課長 桜井篤氏

株式会社G-BIZ EAST 代表取締役社長 松本範昭氏

③「ベジタリアンへのおもてなし」

株式会社みんなのごはん 代表取締役 岩溪寛司氏

④「ハラル・ビーガン料理試食&懇談会」

ホテルスプリングス幕張 総料理長 藤間高志氏

参加者：73名



セミナー会場の様子



試食・懇談会の様子

<事業化促進支援>

おもてなしチャレンジミーティング（ミニセミナー）

第1回（千葉県主催）：令和元年11月8日（金）※2部制

第1部「ベジタリアンって何？」 13:00～14:30

会場：ちばセミナールーム

講師：(株)みんなのごはん 岩溪寛司氏

第2部「ムスリムフレンドリー対応どうしよう？」 15:00～16:30

会場：ベンガルタイガー（飲食店）

講師：ベンガルタイガー 小島麻沙子氏

参加者：各回11名

第2回（千葉市主催）：令和元年11月14日（木）14:00～16:00

会 場：NPO法人千葉イスラーム文化センター会議室（中央区松波）

議題等：プロジェクトについて

千葉市ムスリムインバウンドの取組について

ムスリム&ベジタリアン対応店舗を増やそう！

アフターコンベンションに向けて 等

※千葉市インバウンドプレーヤーズミーティングと併催

参加者：18名

第3回（千葉県主催）：令和2年2月10日（月）14:00～16:00

会 場：J A富里大会議室 ※富里市・J A富里市と連携して実施

議題等：プロジェクトについて

ベジタリアン対応とベジアイコンプロジェクト紹介

ちばのインバウンドと千葉市ムスリムフレンドリーの取組 等

参加者：17名

<プロモーション>

1 ベジアイコンの制作

ベジタリアン・ヴィーガン対応製品をわかりやすく表示するベジアイコンをデザイン。シール等を適合する製品を有する食品製造事業者に無償提供。



2 ベジタリアン・ムスリムフレンドリー製品販売機会の提供

① 11月21日（木）～23日（土）：県アンテナショップ@KITTE 出展
[出展事業者]

（株）石井食品、(株)YACHIMATA YOSHIKURA（やちまたよしくら）、（有）与左エ門

[内容] 本プロジェクトのPR・ベジタリアン対応製品の展示・販売



展示ブースの様子



イベントスペースを使っでのプロジェクト説明
(みんなのごはん岩溪氏)



展示品の様子（ピーナッツ）



展示品の様子（梨酢）

② 1月20日（月）～3月31日（火）：千葉ペリエでの販売

〔販売事業者〕

（株）YACHIMATA YOSHIKURA（やちまたよしくら）、有限会社与左エ門

③ 3月2日（月）～15日（日）：成田空港第一ターミナル内

「千葉トレードセンター」

〔取扱商品〕 約50商品



※ 3月3日千葉日報掲載

④ 3月20日（金）※祝日～：道の駅多古あじさい館

- ・ベジタリアンフレンドリー対応の地場産品の展示・販売
- ・レストラン「キッチンTAKO」でのベジタリアン軽食メニューの提供



レストラン入り口



物販店舗での陳列

3 千葉県の食の多様性をPRするポスターの掲出

- ① JR海浜幕張駅改札口 3月10日（火）～13日（金）
※FOODEX期間中を想定（FOODEX自体は中止）
- ②海浜幕張駅近隣ショッピングセンター10か所
※店舗へ掲出を依頼

4 プロジェクトサイトの制作

本プロジェクトを広く紹介するためのホームページを制作、開設した。

<https://eat-together.jp/>

〔総括〕

- ちばの『おもてなし』食フォーラム、おもてなしチャレンジミーティングなど積極的に開催し、県内事業者等への周知を図るとともに、ベジタリアン・ムスリムフレンドリー対応についての知見を深めてもらった。
- 成田空港周辺地域への誘客・経済活性化のため、地元市町との連携を強化してきた。
- 「食のダイバーシティ先進地ちば」のPRのため、ウェブサイトをオープンさせたほか、海浜幕張エリアを中心に、ポスターの作成・掲示を行った。

日本遺産等を活用した誘客促進

日本遺産等の地域資源や地域の魅力を活用し、千葉県内の交流人口拡大と訪日外国人旅行客の増加に向けたツアー造成の為にモニターツアー及び誘客プロモーションを行う。

本年度においては、佐倉市及び成田市において、モニターツアー及び誘客プロモーションを周辺の地域資源や団体・企業と連携して実施した。

[展開]

1 モニターツアー

《開催概要（佐倉市）》

- ・日 時：令和元年11月29日（金）8時30分～18時30分
- ・内 容：※ツアースポット間は専用バスで移動
行程：JR上野駅⇒佐倉城⇒国立歴史民俗博物館⇒秋田屋（昼食）⇒ひよどり坂⇒武家屋敷⇒旧堀田邸⇒佐倉ふるさと広場（買い物）⇒JR上野駅
- ・参加者：17名
- ・参加者アンケート（16名が回答・満足とほぼ満足を合算した割合）

○食事（秋田屋野点弁当）おもてなし	68%
食事内容	68%
○バス会社	ドライバー 100%
バス	93%
○案内人	93%
○添乗員	87%
○総合評価	81%
- ・主な評価コメント
 - 自分ではなかなかまわりきれないところをコンパクトにまわられて興味深かった。
 - 説明が丁寧でよかった。
 - 歴史の話が興味深かった。

《開催概要（成田市）》

- ・日 時：令和2年1月24日（金）8時30分～18時30分
- ・内 容：※ツアースポット間は専用バスで移動
行程：JR上野（集合）⇒宗吾霊堂⇒成田山表参道⇒近江屋（昼食）⇒成田山新勝寺⇒房総のむら⇒JR上野（解散）
- ・参加者：11名
- ・参加者アンケート（8名が回答・満足とほぼ満足を合算した割合）

○食事（近江屋・特上うなぎ）おもてなし	100%
食事内容	87%
○バス会社	ドライバー 87%
バス	75%
○案内人	87%
○添乗員	100%
○総合評価	100%

- ・主な評価コメント

○宗吾霊堂は一度来てみたかったので歴史の勉強にもなった。

○成田山には何度も来ているが、詳しい説明がありとても良かった。



【佐倉でのモニターツアーの様子】

ひよどり坂を歩く参加者



【成田でのモニターツアーの様子】

成田山新勝寺でガイドの説明を聞く参加者

2 誘客プロモーション

- ・概要：近畿日本ツーリスト首都圏が、パナソニックの映像コミュニティ「LUMIX CLUB PicMate」上に特設ページを開設。成田市・佐倉市の写真に拍手・コメントをしてもらうユーザー参加型企画を実施した。
- ・時期：令和元年12月12日（木）～令和2年2月3日（月）
- ・周知方法：パナソニックサイトでの案内、パナソニックニュースリリースなど
⇒大手媒体社（朝日、産経など）含む35社に情報が掲載された。
- ・実施方法：特設サイトにアクセスし、「成田市・佐倉市」のアルバム内の写真に拍手をした方の中から抽選で賞品をプレゼントした。
- ・結果：応募総数4,043人・総拍手数31,061件・総コメント数258件
- ・主な評価コメント
 - 綺麗ですね。実物を見てみたいです。（成田山新勝寺）
 - 竹藪をぬける風の音が大好きです。是非一度訪ねたいです。（ひよどり坂）

【協力会員】

（株）近畿日本ツーリスト首都圏、千葉県、香取市、佐倉市、銚子市、成田市、

【総括】

- 文化庁の調査によると、日本遺産について「知っていて実際に訪れたことがある」「知ってはいるが訪れたことがない」の合計が、全体の29%と認知不足は否めない状況にある。一方、「興味がある」は82%という統計があり、よくわからないけど興味があるという人の取込みが課題である。
- 今後は、アンケートや当日のヒアリングの結果を踏まえ、新たなターゲット層の開拓

として歴史コース以外のコースとのコラボレーション（写真撮影ツアー・街歩きツアーなど）を検討し、日本遺産の認知度アップを図る。また、受け入れ先との体制を早めに整えて、今年度実施した拍手キャンペーンの告知とモニターツアー申込のタイミングをマッチングさせる事なども検討していく。

- 次年度は、今年度の実績を踏まえて佐原・銚子地域（今年度未実施）でモニターツアー及びプロモーション活動を実施する。

地方創生と連動したDMO養成塾

国内では、これまでDMOの設置が促進されてきているが、本県では、登録に向けた取組が遅々として進んでいない。

また、DMOの設置は、地方創生の取組の一環として始まったものの、地域の関係者にとって、必ずしも関連あるものとの認識が得られていない。

そこで、地方創生に有効な取組としてDMOを核とした本来あるべき組織体制を理解し、持続的な地域経営ノウハウを確立する講座を令和元年度から令和2年度にかけてシリーズで開催する。

このシリーズの第1回目となる講座を「第2回県内経済活性化セミナー」として以下のとおり開催した。



挨拶する水野参与（ちばぎん総合研究所社長）



講演する山田氏

[展開]

第2回県内経済活性化ビジネスセミナー

～持続可能な地域経営に向けて何をすべきか～

日時:令和2年3月18日(水)13時30分～15時30分

場所:京成ホテルミラマーレ 6階「ローズルーム」

内容:「持続可能な地域経営に向けて何をすべきか」

生産年齢人口の減少により地域経済の後退が進む地域にとって、今後も地域として存続していくために必要な、地域経営のノウハウ、体制づくりなどについて、提言した。

講師:JTIC、SWISS代表 山田桂一郎氏

(内閣官房地域活性化伝道師、観光カリスマ、観光庁「世界水準のDMOのあり方に関する検討会」委員)

[参加者等]

□ 会員 37名(24社・団体) □ メディア 1社

[アンケート結果](N=31)

<本セミナーについて>

大変参考になった	15件(48.4%)
参考になった	15件(48.4%)
どちらでもない	1件(3.2%)

<次回以降養成塾について>

ぜひ参加したい	14件(45.1%)
参加したい	16件(51.7%)
参加しない	1件(3.2%)

- ・ DMO の設立に向けて準備を進めているが、設立の目的など現状あいまいな点が多々あったが、方向性が見えてきた感じがして良かった。
- ・ DMO についてもっと根本から考えてゆく必要性を実感した。
- ・ 空港周辺地域の産品や観光地をいかに空港を通じて外部に発信するかという視点でセミナーを聞きに来たが、「地域経済循環」を加速することこそ地域振興にとって大切、という点に気づかされた。具体的な施策をどう打つかが悩ましい。
- ・ 目的をしっかりと明確化すること、「自立」と「持続」、地域内経済循環は今後考えを進めるうえで役に立ちました。
- ・ 次回養成塾では、DMO 自体の在り方について(組織設計、自主事業、役割)より深く聞きたい。
- ・ 次回養成塾では、観光事業の各団体や自治体との役割分担の進め方、すり合わせのやり方について聞きたい。

[総括]

- 新型コロナウイルスの影響もあり、申込者数はあまり伸びなかったが、熱意のある参加者が集まり、質疑応答のみならずセミナー後も講師の山田氏と意見交換する場面が多く見られた。
- 地域経済が活性化することがより上位の目的であり、DMO設立は一つの手段であるということを実感することができた。
- 次回養成塾に参加したいというアンケート回答が96%を超えており、シリーズの導入としては十分な役割を果たしたが、今後、今回のセミナーに参加しなかったが地方創生の担い手になり得るような会員をどのように巻き込んでいくかが、課題となる。

日本文化の発信によるターミナル空間の価値向上及び近隣エリアへの誘客

国立歴史民俗博物館が所蔵する「江戸図屏風」にNTT東日本などの技術を組み合わせて「光る江戸図」を制作し、成田国際空港で展示する。展示品を通して、国立歴史民俗博物館の位置する佐倉市をはじめとする近隣エリアへの誘客を促し、交流人口の拡大を目指す。令和2年3月より「光る江戸図」の空港内展示を開始した。

[展開]

1 展示概要

展示期間：令和2年3月12日(木)～9月末までを予定

展示場所：成田国際空港 第2ターミナル

出国手続き後エリア

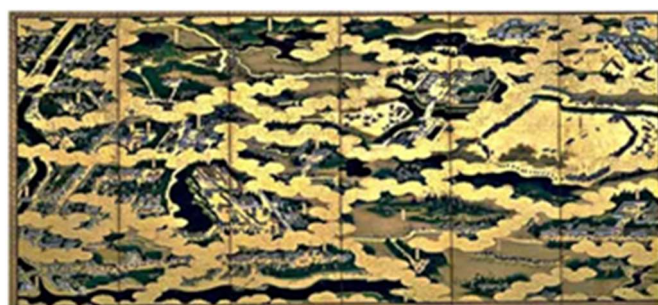
(「NARITA SKY LOUNGE 和」内)

※新型コロナウイルスの影響によって、展示場所は閉鎖されている(令和2年8月現在)

江戸図屏風：江戸時代初めの江戸とその周辺を描いた屏風。江戸時代初期の絵画資料は少なく、研究対象としても貴重な存在。



江戸図屏風(左隻)



江戸図屏風(右隻)

解説用 ICT 機器：キャラクター召喚装置である「Gatebox」とコミュニケーションロボットの「Sota」を設置。両機器とも、言語選択ボタンを押すことで、日本語、英語、中国語、韓国語の4つの言語で屏風の解説を聞くことが可能。「Gatebox」では、国立歴史民俗博物館3Dキャラクターの「もみちゃん」が解説する。



Gatebox



もみちゃん



Sota

展示の様子：



2 内覧会

開催日時：令和2年3月6日（金）

開催場所：千葉銀行本店

参加団体：国立歴史民俗博物館、千葉銀行、成田国際空港、NTT 東日本、当協議会

当日概要：佐久間会長をはじめとする関係団体の内覧会を実施した。

当日の様子：



[メディアへの露出]

千葉日報（3月8日）日経新聞（3月11日）日刊航空（3月12日）

[協力会員]

国立歴史民俗博物館、佐倉市、^{（株）}千葉銀行、成田国際空港、NTT 東日本

[総括]

- 当初予定通り「光る江戸図」及び解説用 I C T機器の空港内展示を開始した。今後は展示品通じて、佐倉市をはじめとする県内交流人口の拡大を目指していく。

ユニバーサルツーリズムの促進

オリ・パラへの対応や高齢者比率の増加を見据え、今後ますます需要の高まりが想定されるユニバーサル対応への機運を醸成する。

本年度においては、昨年度と実施地域を変え、ユニバーサル対応への準備を図る機運を醸成することを目的に、(公社)千葉県観光物産協会等と連携して、①座学・フィールドワーク・②モニターツアー・③事後フォロー勉強会を実施した。

[展開]

1 座学セミナー・フィールドワーク

《開催概要》

- ・日 時：令和元年9月5日（木）13：30～16：15
- ・場 所：渚の駅・たてやま 1階 海辺の広場内「レクチャールーム」
- ・内 容：
 - 講師：湊山知弘氏（KNT-CTホールディングス(株)事業戦略統括部課長）
 - 座学セミナー（13：30～14：30）
～テーマ～
 - 「ユニバーサルツーリズム」という考え方
 - 国内外のツアー事例を通じて工夫を知りヒントを探る
 - フィールドワーク（14：45～16：15）
～内容～
 - 障がい者サポートガイドの解説（東京2020組織委員会作成資料）
 - 車いす、アイマスクを使用した疑似体験
- ・参加者：31名
- ・参加者アンケート（25名が回答）
 - 大変参考になった68.0% 参考になった32.0% その他0%



【座学セミナーの様子】



【フィールドワークの様子】

2 モニターツアー

《開催概要》

・日 時：令和元年10月24日（木） 8：30～18：00

・内 容：

行程：JR千葉駅⇒漁師料理たてやま（昼食）⇒渚の駅たてやま（海釣り体験・浜辺体験）⇒道の駅とみうら（お買い物）⇒JR千葉駅

※ツアースポット間は専用バスで移動

・参加者：6名

・参加者アンケート

○漁師料理たてやま（食事）：とても良い33.3% 良い50.0%
普通16.7%

評価理由：全体的においしかった
お刺身が美味しかった

○渚の駅たてやま（釣り体験）：とても良い83.3% 良い16.7%
その他0%

評価理由：釣りは事故発生を苦慮致して単独では控えているが、挑戦できてとても有意義だった。

○渚の駅たてやま（浜辺体験）：とても良い50.0% 良い33.3%
普通16.7%

評価理由：砂浜用車いすはおしりが痛かったなので、長時間乗るときはクッション等があればうれしい。

※釣り体験・浜辺体験は、参加者ごとに地元のガイドが補助しました。



【海釣り体験の様子】



【浜辺体験の様子】

3 事後フォロー勉強会

《開催概要》

・日 時：令和元年12月6日（金） 13：30～15：30

・場 所：渚の駅・たてやま 1階 海辺の広場内「レクチャールーム」

- ・内 容：今年度の本事業にかかる実施概要を近畿日本ツーリストより説明し、地元商工会議所を交えて今後のユニバーサルツーリズムにかかる受け入れ態勢などについて意見交換を行った。
- ・参加者：7名



【今年度実施事項について説明する様子】



【意見交換する参加者の様子】

[協力会員]

(公社) 千葉県観光物産協会、(株)近畿日本ツーリスト首都圏、館山市

[総括]

- 座学セミナーやフィールドワークを通じて、会員のユニバーサル対応への準備を図る機運醸成のきっかけとなった。
- モニターツアーを通じて、千葉県外の障害者や高齢者に県内観光施設のPRを行うことができた。
- 次年度以降も引き続き座学・フィールドワーク・モニターツアーなどを通じて会員のユニバーサルツーリズムに対する機運醸成を図っていく。

競技開催地とホストタウンや周辺地域が連携した 情報発信・観光誘客等の促進

東京オリンピック・パラリンピックの開催機運が高まるなか、成田空港を利用する訪日客に向けて、県内で開催される競技や県内のホストタウンを紹介し、関係自治体の認知度向上を図り、観光誘客等を促進する。

空港内で紹介映像の放映を予定していたが、新型コロナウイルスの影響による大会延期や訪日客の落込みを受けて、放映を見合わせるようになった。

[展開]

1 事業の概要

東京オリンピックの開催直前の時期において、成田空港のデジタルサイネージ※を活用し、本県で開催される競技及び県内のホストタウンを紹介する映像を放映することを計画していたが、新型コロナウイルスの影響による大会延期や訪日客の落込みを受けて、放映を見合わせた。

※ディスプレイなどの電子的な表示機器を使って情報を発信するメディアの総称。

2 これまでの経緯

- (1) 県（事前キャンプ・大会競技支援課、報道広報課）、N A A、映像製作業者との事前調整
- (2) 県が製作した競技紹介映像の放映に係る調整
- (3) ホストタウン紹介映像の製作
- (4) 空港内での放映（4月～6月）を予定していたが、大会延期や訪日客の落込みのため、見合わせ

[協力会員]

千葉県、成田国際空港(株)、(株)グリーンポート・エージェンシー

[総括]

- 最終的に放映を見合わせるようになったが、千葉県と成田国際空港(株)からの協力を得て、本事業の具体化を進めることが出来た。
- 製作したホストタウンの紹介映像については、ホストタウンへの提供を行い、その活用を図ることとしたい。

空港関連企業の雇用確保に向けた教育機関と連携した取組

成田空港の機能強化によって、航空機発着枠回数が、現行の30万回から50万回に拡大された場合、空港関連企業は、大量の従業員を確保する必要に迫られることが予測されている。

こうしたなか、空港関連企業の雇用確保に向けて、企業と教育機関との意見交換の場を設けるなど、企業と教育機関との連携の促進を図った。

[展開]

空港関連企業の雇用確保に向けた対話を次のとおり実施。

1 目的

空港関連企業や教育機関における雇用確保又は就職支援における取組をより効果的なものとするために意見・情報交換の機会を設ける。

この機会によって、両者が共有した課題の解決に主体的に取り組む状況を創出させる。

2 開催概要

(1) 大学との対話

- 1) 日 時 令和元年10月8日(火) 午後3時から
- 2) 場 所 NAAビル内 会議室
- 3) 出席者 企 業：成田国際空港株式会社
教育機関：敬愛大学、城西国際大学
行 政：千葉県総合企画部空港地域振興課
- 4) 議 題：①空港の機能強化に伴う雇用問題の提起
②各主体の取組
③意見・情報交換

(2) 専門学校、高等学校との対話

3月19日(木)に、空港関連企業(3社)と専門学校・高等学校(3校)との対話の場を予定していたが、新型コロナウイルスの感染予防措置として、開催を見送った。

[協力会員]

千葉県、成田国際空港(株)

[総括]

- 空港の機能強化によって、今後、空港内従業員が大幅に増えることが予測される一方で、生産年齢人口が減少することが推計されているが、協議会としては、空港関連企業が、県内の学生の雇用が円滑に行えるような支援を引き続き実施していきたい。

県内観光情報・成田空港の魅力発信

WEB等を活用した国内外に対する県内観光情報の効果的な発信及び地域における成田空港の魅力発信を行う。

本年度においても、昨年度同様、訪日外国人の県内誘客を企図し、多言語発信対応WEBサイトでの魅力発信を継続した。

MATCHA 旅先 旅の目的 日本旅行の基本情報 予約

千葉 観光

東京近郊のレジャースポット！千葉県・海浜幕張エリアでできる5つのこと



ライター MATCHA-PR
2019.12.26

♡ お気に入り

東京駅と成田空港のほぼ中間にある地域、海浜幕張エリア。スポーツ・文化・イベントなどのイベントに参加したり、ショッピングやスポーツ観戦をしたりなどさまざまな過ごし方が選べます。本記事では、海浜幕張エリアで楽しめることを紹介します。

MATCHA 旅先 旅の目的 日本旅行の基本情報 予約

千葉 観光

サーフィンのメッカ！東京五輪の開催地・千葉県一宮町の楽しみ方



ライター MATCHA-PR
2020.01.07

♡ お気に入り

2020年に行われる東京五輪で新たに採用された競技、サーフィン。空の玄関口・成田空港のある千葉県の、一宮町にある「初々崎海岸サーフィンビーチ」が会場です。一宮町は年間を通して多くのサーファーが訪れる波乗り町。海を中心とした町の楽しみ方を紹介します。

[展開]

《WEBでの情報発信》

- 外国人向けウェブマガジン「MATCHA」内の成田空港特集のウェブサイト台湾をメインターゲットとした多言語のWEB記事配信を行った。
- 内容については、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の機運醸成を目的に、競技開催地である千葉市及び一宮町の情報とし、令和元年12月26日及び令和2年1月7日に、記事を配信した。
- 実際の台湾人の意見を取り入れて、外国人目線で見た魅力的なスポットについて取材を行い、日本語で作成した記事を7言語（英語、中国語（繁体字、簡体字）、韓国語、インドネシア語、タイ語、ベトナム語）に翻訳。

■外国人向けウェブマガジン「MATCHA」について

- ・ターゲットユーザー

国：台湾、タイ、香港（他241の国・地域からアクセスあり）

年齢：20代～30代 属性：FIT（個人旅行者）

・メディア概要

PV（サイトの閲覧回数）：約6,600,000回／月

UU（サイトを訪れた人数）：約3,300,000人／月

■配信記事

① 東京近郊のレジャースポット！千葉県・海浜幕張エリアでできる5つのこと

- ・幕張メッセ ・イオンモール幕張新都心
- ・三井アウトレットパーク幕張 ・ZOZOマリンスタジアム
- ・県立幕張海浜公園

総PV数：6,277（集計期間：令和元年12月26日～令和2年1月25日）

平均ページ滞在時間：2分12秒

② サーフィンのメッカ！東京五輪の開催地・千葉県一宮町の楽しみ方

- ・釣ヶ崎海岸 ・玉前神社 他、上総一ノ宮駅周辺店舗等

総PV数：6,256（集計期間：令和2年1月7日～令和2年2月6日）

平均ページ滞在時間：1分51秒

【協力会員】

千葉市、一宮町

【総括】

- 幕張の記事は、ショッピングや子供向けの体験施設情報等を取り上げたことから、SNSからの流入が多く、今後も記事の閲覧数の伸びが見込めると聞いている。
- 一宮町は訪日外国人の知名度があまり高くないことに加え、サーフィンという特定のユーザー向けのタイトルとしたことから、幕張の記事と比較して記事の平均滞在時間が短くなったと考えられる。
- MATCHAの掲載記事は無期限にユーザーが閲覧可能であり、閲覧数等の集計期間後もPV数は伸びていることから、近隣エリアへの来訪時やオリンピック開催が迫る中でより多くの方に閲覧いただけるものと考えている。

第1回県内経済活性化ビジネスセミナー

平成30年度に実施した「成田空港関連企業の雇用ニーズ調査」及び「アジア経済圏におけるマーケティング調査」の結果について、会員のビジネスチャンスやインバウンド施策につなげるため、第一回県内経済活性化ビジネスセミナーを令和元年度総会に併せて開催した。



主催者挨拶する小松経済活性化部会長
((株)ちばぎん総合研究所担当部長)



講演する(株)ちばぎん総合研究所の関部長



講演する(株)JTB 千葉支店の藤川支店長



講演する(株)Fun Japan Communications の安原氏

[展 開]

日時: 令和元年7月18日(木) 14:30~15:30

場所: オークラ千葉ホテル 3階エリーゼ

内容: ①「成田空港関連企業の雇用ニーズ調査」

セミナーでは調査結果を説明し、成田空港関連企業の雇用促進に向けたコンソーシアムの形成や雇用不足感が強まる業種・職種の「見える化」など5つの事項について提言した。

②「アジア経済圏におけるマーケティング調査」

セミナーでは調査結果を説明し、千葉県をしっかりと伝えれば外国人旅行者の訪千葉意向は高まることから「旅前の情報収集段階での認知向上施策の実施」及び「千葉県産

品に触れる場・機会を設けること」について提言した。

[参加者等]

- ☐ 会員 99団体(社) 153名
- ☐ メディア 7社 8名

[アンケート結果] N=49

「成田空港関連企業の雇用ニーズ調査」

セミナーの内容について

- ・ 大いに参考になった 44.9%
- ・ ある程度参考になった 51.0%
- ・ あまり参考にならなかった 4.1%

(主な意見)

- ・ 高卒就職者が自宅からの通勤を希望していることに関心を持った。成田空港周辺に位置している自治体であり、若年層流出の抑制が期待できると思った。
- ・ 現場において雇用の不足を感じる所であり、調査結果と一致するが、必要な人材とのマッチングが難しい。

「アジア経済圏におけるマーケティング調査」

セミナーの内容について

- ・ 大いに参考になった 41.0%
- ・ ある程度参考になった 53.0%
- ・ あまり参考にならなかった 6.0%

(主な意見)

- ・ 想像より千葉県の認知度の低さに驚いた。
- ・ 訪日外国人向けの情報収集において、HP・SNS の多言語化に向けて改修中なので大変参考になった。

[総括]

- 2つのセミナーを通じて「成田空港の機能強化に伴う雇用促進に向けた取組みを行う必要がある」や「千葉県の認知度は低く、認知度向上に努めていかなければならない」という会員の声が多かった。
- 総会後に実施したため、多くの会員に参加いただくことができた。

第2回県内経済活性化ビジネスセミナー【再掲】

国内では、これまでDMOの設置が促進されてきているが、本県では、登録に向けた取組が遅々として進んでいない。

また、DMOの設置は、地方創生の取組の一環として始まったものの、地域との関係者にとって、必ずしも関連あるものとの認識が得られていない。

そこで、地方創生に有効な取組としてDMOを核とした本来あるべき組織体制を理解し、持続的な地域経営ノウハウを確立する講座を令和元年度から令和2年度にかけてシリーズで開催する。

このシリーズの第1回目となる講座を「第2回県内経済活性化セミナー」として以下のとおり開催した。



挨拶する水野参与（ちばぎん総合研究所社長）



講演する山田氏

〔展開〕

第2回県内経済活性化ビジネスセミナー

～持続可能な地域経営に向けて何をすべきか～

日時：令和2年3月18日（水）13時30分～15時30分

場所：京成ホテルミラマーレ 6階「ローズルーム」

内容：「持続可能な地域経営に向けて何をすべきか」

生産年齢人口の減少により地域経済の後退が進む地域にとって、今後も地域として存続していくために必要な、地域経営のノウハウ、体制づくりなどについて、提言した。

講師：JTIC、SWISS代表 山田桂一郎氏

（内閣官房地域活性化伝道師、観光カリスマ、観光庁「世界水準のDMOのあり方に関する検討会」委員）

〔参加者等〕

- ☐ 会員 37名（24社・団体）
- ☐ メディア 1社

[アンケート結果](N=31)

<本セミナーについて>

大変参考になった	15件(48.4%)
参考になった	15件(48.4%)
どちらでもない	1件(3.2%)

<次回以降養成塾について>

ぜひ参加したい	14件(45.1%)
参加したい	16件(51.7%)
参加しない	1件(3.2%)

- ・ DMO の設立に向けて準備を進めているが、設立の目的など現状あいまいな点が多々あったが、方向性が見えてきた感じがして良かった。
- ・ DMO についてもっと根本から考えてゆく必要性を実感した。
- ・ 空港周辺地域の産品や観光地をいかに空港を通じて外部に発信するかという視点でセミナーを聞きに来たが、「地域経済循環」を加速することこそ地域振興にとって大切、という点に気づかされた。具体的な施策をどう打つかが悩ましい。
- ・ 目的をしっかりと明確化すること、「自立」と「持続」、地域内経済循環は今後考えを進めるうえで役に立ちました。
- ・ 次回養成塾では、DMO 自体の在り方について(組織設計、自主事業、役割)より深く聞きたい。
- ・ 次回養成塾では、観光事業の各団体や自治体との役割分担の進め方、すり合わせのやり方について聞きたい。

[総 括]

- 新型コロナウイルスの影響もあり、申込者数はあまり伸びなかったが、熱意のある参加者が集まり、質疑応答のみならずセミナー後も講師の山田氏と意見交換する場面が多く見られた。
- 地域経済が活性化することがより上位の目的であり、DMO設立は一つの手段であるということを実感することができた。
- 次回養成塾に参加したいというアンケート回答が96%を超えており、シリーズの導入としては十分な役割を果たしたが、今後、今回のセミナーに参加しなかったが地方創生の担い手になり得るような会員をどのように巻き込んでいくかが、課題となる。

(2) 空港利用促進事業

空港利用促進PR等

新規就航等の時機を捉えたPRとして、会員及び就航先と連携し、空港利用促進や千葉県の魅力等を紹介するプロモーションを実施した。

[展開]

○ジェットスター・ジャパン庄内線新規就航関連

8月1日のジェットスター・ジャパン成田ー庄内線新規就航に伴い、成田国際空港株式会社及びジェットスター・ジャパン株式会社と連携し、酒田市で開催されたイベントにてプロモーションを実施した。



<プロモーション概要>

- ・日程：令和元年8月3日(土)
 - ・イベント名：酒田花火ショー
 - ・会場：最上川河川公園(酒田市)
 - ・内容：PRブースでの成田空港・千葉県の魅力紹介、パンフレット等の配布、八街産落花生つかみどり
 - ・PRブース来場者数：約500人 ※PRブースで配布したパンフレット配布数にて集計
 - ・配布物：パンフレット 約500セット 風船 約500個
落花生 約500名分 団扇 約6,200枚
- (参考)イベント全体来場者数:約21.6万人



PRブース



ブースで渡した落花生や風船を持つ来場者

[協力会員]

ジェットスター・ジャパン(株)、京成電鉄(株)、成田国際空港(株)、千葉県

【総括】

- 成田-庄内線の認知度はまだまだ低いと感じたが、航空運賃や成田空港から都内へのアクセス等を伝えることでLCCに興味を持っていただける来場者が多くいた。LCC就航から間もない地方都市ではまずは認知度向上が必要なため、新規就航のタイミングにあわせ、就航先の方々に直接アプローチできる現地のイベント等でPRすることは成田LCCの利用促進に繋がると思料する。
- 八街産の落花生による「落花生つかみどり」は来場者から大変好評で、千葉県のパRに繋がった。今後のプロモーションでも、イベントのテーマや就航先と千葉県の関連性等に応じて、会員と連携した効果的なPRに取り組みたい。

(3) 基本的な取組

首都圏中央連絡自動車道及び北千葉道路の整備推進に関する要望

成田空港に通じる首都圏中央連絡自動車道（圏央道）及び北千葉道路の一日も早い開通を推進するため、要望活動を実施した。

県内関係2団体とともに、財務省、国土交通省及び県選出の国会議員を訪れ、要望書を届けた。



国土交通副大臣への要望



国土交通省道路局長への要望

要望活動の様子

[展開]

- ・ 日 時 令和元年11月12日（火）13：00～
- ・ 参加団体 千葉県議会首都圏中央連絡自動車道推進議員連盟
首都圏中央連絡自動車道建設促進県民会議

《要望先》

- ・ 財務大臣、財務副大臣、財務大臣政務官、財務事務次官、主計局長 ほか7名
- ・ 国土交通大臣、国土交通副大臣、国土交通大臣政務官、国土交通事務次官、
道路局長ほか31名
- ・ 県選出国会議員 29名

※内閣総理大臣、内閣官房長官、関東地方整備局、東日本高速道路株式会社及び独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構への要望については、別途実施。

《要望内容》

- 1 圏央道の一日も早い全線開通を図ること。
 - ・大栄・横芝間については、令和6年度の開通に向け、確実に事業を進めること。
 - ・県境・大栄間の4車線化についても、令和6年度までの供用に向け、確実に事業を進めること。また、残る暫定2車線区間については、早期に4車線化に着手し、一日も早く完成させること。
 - ・圏央道のストック効果をより高めるインターチェンジへのアクセス道路が確実に整備されるよう必要な予算を確保すること。
- 1 北千葉道路の早期整備を図ること。
 - ・国道464号の全線の直轄編入を図ること。
 - ・西側区間（小室IC以西）は、専用部と一般部の併設構造とし、専用部については直轄事業と有料事業の合併施行の計画として、早期事業化を図ること。
 - ・東側区間は、早期開通に向け、十分な予算を確保するとともに、直轄施工区間については、引き続き、4車線での整備を図ること。
- 1 防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策の拡充をするとともに、3か年緊急対策後においても継続的に推進を図るために、新たな支援制度の検討を行うなど、必要な財政措置を行うこと。
- 1 国内外からの観光集客や産業の振興を促進し、地域経済に好循環をもたらすストック効果を早期に発揮させるよう、圏央道及び北千葉道路といった民間投資を誘発するストック効果の高い道路事業をより推進するため、令和2年度は圏央道・北千葉道路を含めた道路関係予算全体を増額すること。
また、令和元年度補正予算を早期に編成すること。

[総括]

- この2つの道路は、成田空港の利便性向上や成田空港の経済効果を千葉県全体、首都圏全体に波及させるために不可欠な基幹インフラであることから、今後も引き続き要望活動を続けていく。

会員提案の募集・具体化

協議会として、期間延長後の初年度となる平成30年度からは、より一層のプラットフォーム機能を発揮し、事務局・会員間の連携の強化、会員相互の連携・協働体制の構築・強化を図り、会員自身が主体となる事業の創出・自走化を促進するという事業展開方針を掲げている。

こうした事業展開方針から、協議会としての事業は原則、各会員からの提案に基づき実施するという枠組みのもと、以下のとおり、会員自身が主体となり協議会を通じて取り組みたい事業、他の会員との連携・協働により取り組みたい事業及びセミナー等について、各会員から提案や要望を募集し、事業化を検討・実施した。（なお、会員からの事業提案は随時募集している。）

[展開]

募集期間：令和元年12月2日（月）～令和元年12月20日（金）まで

募集内容：令和2年度の実施事業及びセミナー

提案状況：① 会員からの事業提案（11件）

② セミナー等要望（5件）

③ 自由意見（5件）

《会員提案の検討・具体化》

令和元年度事業として、以下の会員提案を事業化し実施した。

- ・CHIBAビジコンとの連携による新規事業創出の促進
- ・アクティビティ（体験型）商品開発
- ・航空/空港関連企業との商談会
- ・ランドオペレーターとの商談会
- ・訪日客等への「おもてなし」食プロジェクト
- ・日本遺産等を活用した誘客促進
- ・日本文化の発信によるターミナル空間の価値向上及び近隣エリアへの誘客
- ・ユニバーサルツーリズムの促進
- ・競技開催地とホストタウンや周辺地域が連携した情報発信・観光誘客等の促進
- ・空港関連企業の雇用確保に向けた教育機関と連携した取組
- ・県内観光情報・成田空港の魅力発信

[総括]

- 事務局による検討を行い、事業展開方針に合致する提案を協議会事業として位置づけ実施した。

(4) その他

プレスリリース

協議会の活動を広く広報するため、プレスリリースなどにより、メディアへの掲載を図った。

《プレスリリース実績》 8件

(令和元年)

- 7月12日 「令和元年度成田空港活用協議会総会及び第1回県内経済活性化ビジネスセミナーの開催について」
- 7月25日 「おいしい千葉と空の商談会 2019 夏の開催について」
- 9月24日 「ちばの「おもてなし」食フォーラムの開催について」
- 11月18日 期間限定千葉県アンテナショップへの出展について～訪日客等への「おもてなし」食プロジェクトをPR～

(令和2年)

- 1月23日 「ランドオペレーターとの「商談会」の開催について」
- 2月25日 「Veg-Icon Project Chiba (ベジアイコンプロジェクトちば) in 千葉トレードセンター @成田空港 について」
- 3月5日 「成田国際空港・第2ターミナル出国手続き後エリアにおける「光る江戸図」の展示事業について」
- 3月17日 「Veg-Icon Project Chiba (ベジアイコンプロジェクトちば) in 道の駅多古あじさい館について」

《広告等掲載実績》 2件

(平成31年)

- 4月26日 日刊工業新聞

(令和2年)

- 2月26日 日刊工業新聞